

## 6. 発達障害児のグループ支援活動

グループ名 泉佐野市LD・ADHD研究会

代表者 高垣直樹

### ① 活動の目的

自閉症・学習障害・注意欠陥多動性障害・などの表面化しにくい発達障害（がい）児への支援は他障害に比べても遅れている。発達障害児の多くは、学校において適応できず、適切な指導、教育、対応がなされずに「問題児」扱いされていることが多い。学校において、適切な指導・教育が受けられず、不登校から引きこもりに移行するケースが増えているが、これは、学校現場や保護者の発達障害についての知識が十分とは言えず、発見が遅れ、成長に合わせた適切な指導がなされず、社会性が身につかないまま社会生活不適応となることが要因の一つであると考えられる。そこで、教師や保護者を対象とした障害児研究会や小グループでの親子教室を開催し、障害の早期発見、早期対応を目指し、面接や心理検査などを通じて、子どもの特性を把握し、個々に応じた指導方針・学習方法・家庭環境の調整などをはかることを目的とする。

### ② 活動の概要

小グループでのレクリエーションや心理面接などを通して、社会生活に必要な技術を習得する（支援教室）。保護者や教師に対しては、適切な関わり方・指導方法など事例検討等を通して共に考える(学習会)。

平成19年10月より月2回の活動を24回おこなった。1月のうち1回は児童・生徒を対象としたグループレクリエーション、1回は保護者や教師を対象とした学習会をおこなった。参加児童は中学生から高校生のまでの男女6名であった。学習会に参加した者は児童の保護者、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、精神保健福祉士、障害者施設の生活相談員、児童養護施設の心理療法士であった。

### ③ 活動報告

#### ○ 学習会（全12回）

支援教室と並行して学習会をおこなった。主に発達障害の理解を深めるため、事例検討や各種検査の読み方を学習した。

保護者との面接では保護者の悩みや不安を聞き取ることができた。最も多い悩みや不安は「就職することができるのか」であった。学校に行っている間は様々な問題があるにしても、学校という守られた環境がある。しかし、学校を卒業し社会に出ると、人間関係がうまく築けずに解雇や自主退職してしまうのではないかという不安が強かった。

#### ○ 支援教室 1回～5回（10月～2月）

10月から2月の支援教室の目標は「話を聞くこと、順番を待つこと、ルールを守ること」に重点を置いた。これらの目標を達成するための課題は工作・年賀状のハンコ作り等とした。スタッフが指導し工作の作成手順や注意点を教えた。始めは各々が話を聞かずに好き勝手に作業を進め失敗し、パニックになり、やる気がなくなる、やる気がなくなると、他の子どもの邪魔をして喧嘩になるという悪

循環が見られた。その度にスタッフと子どもが納得するまで話し合い改善策を考え実行した。そうしていくうちに工作の出来不出来よりも自ら努力し皆と同じものを作ったという達成感を得ることにより、前半目標の「話を聞くこと、順番を待つこと、ルールを守ること」は達成され始めた。

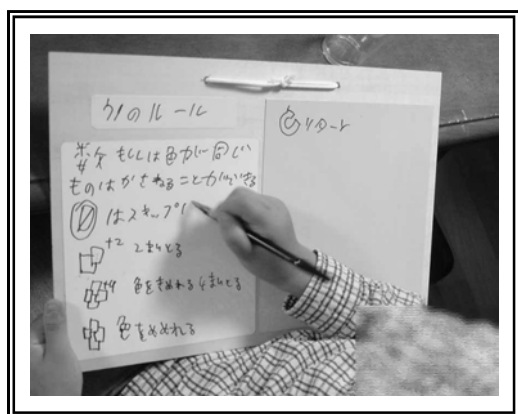


(写真1 話し合いの場)

○ 支援教室 6回～10回 (3月～7月)

3月から7月では、「子ども同士のつながりを親密にし、同年代の子どもと話し合いができるようになる」を目標に、子どもが主体でトランプなどのカードゲームをおこなった。前半にスタッフが主体となっていた課題や話し合いを後半は子どもが主体となりゲームの選択、ルールの決定をおこなってもらった。

スタッフが入った話し合いではスムーズに決まっていたババ抜きやポーカーなどの各種カードゲームが、子ども同士となると意見の衝突が見られ、譲り合うことはなかった。スタッフの補助をする時間を徐々に減らし、7月の話し合いでは子ども同士でゲーム内容を決めることができた。



(写真2 ルールを書いて確認する)

○ 支援教室特別授業 11回 (8月)

8月は夏休みを利用して近くの川へ遠足に行った。8月の目標は「社会でのルールを守ること」とした。家庭内、支援教室でのルールは概ね守ることができ、子ども同士のつながりも親密になり、社会に出ての活動をおこなうことで更なる達成感や充実感を得ることができた。準備の段階から子どもに全てのことを任せ、スタッフは補助に徹するようにした。当日の持ち物、昼食の準備、レクリエーション、注意事項等を話し合い検討していった。

当日は予定表通りにならないこともあったが、問題が起これば皆で解決策を考え、スタッフに相談

し解決できるようになった。



(写真3 遠足)

当日の予定表

時間	予定
9時30分	集合 ミーティング
10時	移動開始
10時30分	現地到着 周辺探検
11時	レクリエーション
12時	昼食
13時	レクリエーション
13時30分	片付け 移動開始
14時	解散

○ 支援教室 12回 (9月)

9月は1年間のまとめとして、振り返りをおこなった。1年前は他者の話を最後まで聞くことが苦手だった子どもたちが、今は他者の話を聞き、自分の話をする、ということが出来た。



(写真4 話し合いの場)

④ 決算報告書

収入①	(単位：円)
大同生命厚生事業団体助成金	200,000-
	計 200,000-
支出②	
会場費	55,000-
交通費	4,500-
レクレーション費	152,467-
印刷代	6,800-
	計 218,767-
合計①-②	-18,767-